

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■4 そう思う ■3 どちらかといえば、そう思う ■2 どちらかといえば、そう思わない ■1 そう思わない ■無回答

①いのちを大切に作る心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

<p>1 一人一人の児童生徒の尊重</p> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていると思いますか。</p>	<p>2 道徳・心の教育の充実</p> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>・本校は心の教育の推進を重点目標に掲げており、質問1の生徒の3・4の回答は昨年度に比べ、6ポイント上昇している。 ・生徒と保護者の差は、子どもの学校での姿と家庭での姿の隔離と考える。学校では「鹿南中生」として行動し、他者への思いやりや手助けなどを進んでいるが、家庭では学校とは違った姿で生活しているということであろう。こうしたことを自然なことと捉えることもできるが、学校と家庭とのコミュニケーションをより一層進展させ、情報共有をより密なものにし、「車の両輪」としての学校、家庭の共通理解、役割分担が必要だと考える。</p>	

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

<p>3 授業力向上</p> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>4 タブレット端末活用</p> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>・本年度よりタブレット端末を活用した授業づくりに本格的に取り組み、その成果として、生徒が教職員以上にタブレット端末をうまく活用していることについての自覚が強い。これはタブレット端末の使用によって「楽しく学ぶ」ということを生徒が経験できたからだと思うが、「教師が分かる、楽しい授業づくりに努めていると思うか。」という質問に対して肯定的な回答をしたのは生徒より職員の方が多かった。このことから「わかる」授業と「楽しい」授業は異なり、教師自身が教科の本質を的確に押さえた授業づくりをしなくてはならないと考える。また、タブレット端末の活用と教材研究をそれぞれに充実させていくことが必要であると考える。</p>	

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

<p>5 学校の支援体制</p> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<p>6 共生社会を担う人材の育成</p> <p>特別支援学級との「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>
<p>・質問5については、学習面・生活面と支援を要する生徒の対応は関係機関の助言や保護者との共通理解をもとに、日常の声かけ、環境・授業の工夫を全職員で取り組んでいる。学校全体で特別支援教育の実践が浸透してきている結果だと捉える。 ・質問6については、特別支援学級に在籍している生徒は、通常学級の生徒と授業・行事等で適宜、共に学習活動しており、それぞれが達成感を得ている。今後も共に学ぶ仕組みを積極的に取り組んでいきたい。</p>	

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

<p>7 安全と事故防止</p> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>8 家庭や地域との連携協力</p> <p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>
<p>・事故防止等に向け、安全・安心を第一に考えた細やかな交通指導や安全指導、訓練を継続した結果が高評価につながっていると考えられる。今後も地域の関係機関（交通指導員や青少協等）と連携を図りながら、安全・安心な学校を目指す。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭や地域と連携して教育活動を展開する機会が減っている。しかし、学校に対して協力的な地域（保護者）であり、今後も教育活動を工夫しながら連携強化を図っていきたい。</p>	

⑤学校独自項目

<p>9 本校の教育</p> <p>学校は、多様な意見を参考にしながら生徒自身で物事を決定するように指導していますか。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>・本校は、学校教育目標を「自律と協生」とし、①自ら課題を見つけ学び続ける生徒の育成②主体的に判断し行動できる生徒の育成③他者と協力してよりよい生活を築こうとする生徒の育成の達成に向けて、日々教育活動を工夫してきた。その成果が質問9の良好な結果に出ている。今後も主体的判断力の向上を目指し、実践を積み重ねていきたい。質問10に関しては、3・4の回答が80%を下回り、昨年度と比べても低下しており、言語活動の充実に向けた授業・特別活動の工夫が必要である。</p>	<p>10 本校の教育</p> <p>学校は、生徒が自分の思いや考えを周りの人に伝えることができるように指導していますか。</p> <div style="text-align: center;"> </div>
<p>11 本校の教育</p> <p>お子さんは、友達と協力して活動する中で、友達のをさを認めることができていると思いますか。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>・様々な教育活動を生徒の主体的・協働的な活動として位置づけることで、自分と他者の価値を認識し、相手を尊重できていると考える。望ましい人間関係を構築するために「共感」「思いやり」をより一層重要視しながら共感的な人間関係を目指したい。</p>	

来年度の具体的な取り組みについて

- ①いのちを大切にする心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応
 - ・心のアンケートや絆アンケート等を活用し、一人一人の生徒に対応した指導・支援を行う。
 - ・不登校や問題行動については、早期発見・早期対応を組織的にを行い、長期化・悪化させない。
- ②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進
 - ・校内研修にて、授業研・ICTの活用等を実施し、スキルアップを図り、「わかる授業・楽しい授業」を目指す。
- ③教員が子どもと向き合うための体制の整備
 - ・特別支援教育の視点・人権教育の視点で支援を要する生徒に適切な対応を行う。特別支援教育部会を有効化させる。
- ④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進
 - ・浄化槽と外壁の工事が順調に進んだ。定期的な安全点検や迅速な補修等で環境整備を充実させる。
- ⑤学校独自項目
 - ・学校教育目標を学校全体で意識しながら、特に、言語活動の充実に向けて話し合いや発表の場を意図的に取り入れていく。

学校関係者評価

学校評議員会を7月7日（水）に、学校の授業参観日に合わせて実施した。5時間目に保護者と共に授業参観、6時間目に意見交換会を開催した。子ども達の落ち着いた授業態度に対して好評であったが、地域生活では、元気のよい挨拶が徐々に廃れていっているという心配が聞かれた。タブレット使用がどの教科でも導入されており、隔世の感があるとの感想が聞かれたが、これでは読書の機会がさらに奪われていくのでは、との感想もあった。本校生徒の素直さ、元気よさを見て安心されていた。本年度は新型コロナウイルス感染防止・予防のために、学校関係者以外の方々の入校をお断りした。オリンピック選手を招いての講演会も1月末に予定していたが、これも中止した。学校評議員会も年度当初は各学期に一度、一年間で少なくとも三度の開催予定であったが、結果的に最初の会で終わってしまった。